

平成26年1月22日

高速道路資産の長期保全及び更新のあり方に関する技術検討委員会の提言に際しての  
NEXCO3社長の共同コメント

NEXCO東日本 代表取締役社長 廣瀬 博  
NEXCO中日本 代表取締役社長 金子 剛一  
NEXCO西日本 代表取締役社長 石塚 由成

NEXCO東日本・中日本・西日本のNEXCO3社(以下、「NEXCO3社」という。)では、高速道路ネットワークの機能を永続的に活用していくことを目指し、橋梁やトンネル、土構造物などの高速道路本体構造物について、大規模な更新や大規模な修繕の必要性、並びに、その対策について、東京大学の藤野先生に委員長をお願いしまして、「高速道路資産の長期保全及び更新のあり方に関する技術検討委員会」を平成24年11月に設置し、検討を進めてまいりました。

この間、昨年4月25日には本委員会の検討内容を「中間とりまとめ」として公表させていただきました。その後も、膨大なデータを整理し、包括的な検討を進め、本日、提言をいただいたところです。

本委員会の提言は、将来を見据えて、国民共有の財産である高速道路資産の健全性と機能を永続的に確保するための方向性が示されたものと認識しております。また、藤野委員長をはじめ各委員の皆様のご多大なるご尽力に感謝を申し上げますとともに、NEXCO3社としては、提言に基づき、国等の関係機関とも協議調整を行いながら、スピード感を持って、着実に事業を進めるとともに、長期的な視野にたって、道路構造物の計画的な保全に努めてまいりたいと考えております。

また、先ほど、藤野委員長からのコメントでも触れられておりますが、一昨年の平成24年12月2日に発生しました、中央自動車道笹子トンネル上り線の天井板落下事故につきましては、亡くなられた9名の方のご冥福を改めてお祈りするとともに、「二度とこのような事故を起こしてはならない」という強い決意を、NEXCO3社共通の思いとして、改めて、表明させていただきます。

最後に、委員会から助言をいただいております「点検のあり方と第三者等被害防止」などについては、引き続き具体化に向けた検討を行い、大規模更新、大規模修繕の実施などのハード面の対策と合わせ、ソフト面も、より一層の充実を図り、維持管理・更新の更なる着実な推進に努めてまいります事をお約束いたします。